



# あの街から学ぶ しおじりの明日

平成24年度常任委員会、議会運営委員会・議会基本条例推進委員会 視察報告

平成24年度は、総務環境・福祉教育・経済建設の3つの常任委員会と、議会運営委員会・議会基本条例推進委員会が、次のとおり各地の先進事例の視察を行いました。

## 総務環境委員会

平成24年10月16日～18日

### 小水力発電のまち 「アクアバレー」

(山梨県都留市)

水のまち都留市のシンボルとして、また小水力発電の普及・啓発を図ることを目的に家中川（からかわ）の2mほどの落差を利用して、小水力発電所を設置しています。現在は3基の小水力発電機が稼働し、市庁舎に電力を供給。余剰電力は電力会社に売電しています。さらにその電力を活用して、葉物野菜等を室内水耕栽培する植物栽培設備展示施設等を整備しています。小水力発電で採算が取れるまでには時間がかかります。当面、どのような目的でやるのかによって考えさせられました。



都留市の小水力発電



防災対策について説明を受ける（盛岡市）

### 防災対策について（東日本大震災における支援体制と今後の防災対策について）

(岩手県盛岡市)

盛岡市は東日本大震災で震度5強を観測し、津波により市民32人が犠牲になりました。また福島第一原発事故により、広範な地域に放射能汚染の被害を受けました。県都盛岡市は被災地および被災者への支援として、沿岸被災地への職員の出遣・物資の支援を初め、被災者への住居の提供などを行っています。放射能対策として、空間放射線量の測定はもとより、学校給食の放射性物質の検査等を行い、きめ細かな情報公開と啓発に努めています。巨大地震による検討課題を挙げ、その対応策を行っています。塩尻市としても盛岡市の取り組みを参考にし、

防災計画等に生かしていかなければならないと感じました。バイオマス系廃棄物活用施設「㈱バイオマスパワーしずく」

(岩手県電石町)

平成18年4月に事業開始し、事業内容は、①「家畜排せつ物」と「食品残さ」を処理して得られるメタンガスを利用して発電事業、②「家畜排せつ物」と「食品残さ」の堆肥化事業、③余剰電力と堆肥の販売事業です。建設費は10億円。売り上げは年間1億3千万円あり、平成21年から黒字に転換しています。学校給食の残さ等と、小岩井農場から出る牛フン等、合計一日当たり116tを処理しメタンガス化して発電したり、堆肥化して使います。発電した電力は場内で使用するほか、小岩井農場



バイオマスパワーしずくいしを現地視察



木質バイオマス発電装置

へ売電しています。

塩尻市としても事業所から出る残さや家庭から出る生ゴミ処理が課題になっていますが、同様な事業にしていきたい。課題が多いと感じました。

### 木質バイオマス発電「㈱グリーン発電会津 河東発電所」

(福島県会津若松市)

木質バイオマス発電により生まれた電気を、電力会社の送電網を使用して消費者に供給しています。

発電規模は約5千kW（約1万世帯分）で、使用燃料は木質チップ年間6万t。

㈱グリーン発電会津は関連会社が木材を伐採しチップ化しており、そこから購入しています。一体的な運用を目指している信州Fパワープロジェクトとは違っているが、参考となりました。